

リンゴ火傷病が中国を襲っている 日中友好協会倉敷支部理事長 宇野忠義

「1日1個のリンゴ、医者いらず」とその健康医学的効用が古今東西、説かれてきた。

そのリンゴ生産は、1990年代後半から急速に増大し、先進国、後進国が入れ替わった。ことに、中国の奇跡といわれるほど、2020年には世界の生産量8644万トンの47%を中国が占めるまでになった。中国のリンゴ生産の躍進には、広い耕地と土壌・気象条件などのほかにも日本が伝承した技術や品種も貢献している。大半が着色系ふじで占められている。

その中国をリンゴの最重要病害リンゴ火傷が襲う

第16回井笠支部準備会開かる

日中友好協会岡山県連会長 宇野忠義

1月23日(火)、井原市出部公民館にて、井笠地区(鳥越、木尾、沖原)、岡山支部(河合、真田)、倉敷支部(犬飼、宇野)の参加で開催されました。

1 経過報告では、12月3日(日)倉敷支部の映画会「セデック・バレ」(国際賞受賞 台湾映画)が紹介され(日中友好新聞おかやま、1月15日号に詳細な記事)、台湾総統選挙及び中国と台湾の歴史的関係などについて意見交換しました。また、岡山・倉敷支部の岡崎嘉平太記念

1016

2024/2/15

です。現状を踏まえ、協会本部に置かれなくてもハードルを下げる見直しをしていただけませんか。そうしていただけなければ、十数回の準備会を重ねてきたことが報われません。」

これに対して、おそらく今までにもこういう声があつて、本部もこのことについて検討していたのではないかと思うのですが、司会をされていた組織委員長の太田宣也氏からこの規約を維持するというのが本部の見解です。理由はハードルを下げるのが組織拡大を妨げ、むしろ組織後退につながる恐れがある。」というものでした。

会議に台湾から参加されていた大西博先生が、チャットで太田さんに付け加えれば、「班活動」と送ってくれたのですが、この時は何のことか、わかりませんでした。

これに対し、福岡県連から私たちの組織では20名に満たないところは準備支部というように位置づけて、活動を続けている。」というお話も聞きました。

また、三重県でも新支部を立ち上げようと本部に申請したが、この規定のため本部に認めてもらえなかった。」という話も聞きました。

さらに福岡県連の話に対し、準備支部というのは本部では認めていなくて、本部で認めているのは班活動ではないか。」という声も聞きました。これで初めて、大西先生の班活動の意味が分かりました。

ということで、井笠支部ではなく、井笠班ということ、当面引き続き活動していくしかないということになりました。残念な思いはありますが、とにかく少しでも会員や準会員を増やして支部に近づけるように努力してゆきましよう。引き続きよろしくお願

採りとして園地での蔓延をもたらす危険がある。

果樹、花木に広範囲な被害をもたらす危険があり、もっとも恐るべき病気であり、アメリカでは毎年100億円以上の被害が出ている。世界各地で猛威を振るっているが万全な防除策はなく、ストレプトマイシンなど薬剤を利用しても耐性菌が現れ、病気の拡大、蔓延がとどまらない。焼却しかない。このような樹体すべてを犯す恐るべき病気の病原が持ち込まれることになると、病害防除法の開発や検疫等のために莫大な負担と危険をおわされる。

私は弘前大学時代に、植物病理の先生たちとともに「リンゴ火傷病の検査・検疫体制と侵入防止対策の研究」を行い、書籍や論文を発表してきた。その成果の一部を、中国の農業研究者に2008、2016、2018、2023年と4度にわたって、提供してきた。

今後も日中の研究交流が深まり、研究が少しでも役に立つことができるように努力していきたい。

3 会員拡大については、対象者名簿の整理とはたらきかけについて候補者、団体を検討し、次回までに前進できるように宣伝物の準備と文化活動の重要性が指摘されました。

なお、中央本部の呼びかけに答え、能登半島地震の義援金を各支部役員で集め、犬飼全国理事から本部に送金することにしました。

4 次回の準備会は3月12日(火)2時から、井原市出部公民館で予定しています。

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouhao.jinai.net>
メールアドレス
rizhongyouhaoxienhukayama@yahoo.co.jp



第一回全国理事会報告

岡山県全国理事 犬飼繁

日中友好新聞おかやま1月1日号に、真田紀子さんの次のような記事が載りました。

今回一番重要なことは、井笠支部を立ち上げることができていないことです。その理由は、本部の規約によれば、「新支部設立には20名の正会員が必要」というし、やはりです。これをクリアすることができないので、県連の最初の仕事がつまずいているのです。

今回県連の総意として、「正会員、準会員合わせて10名で新支部を設立できる」と規約を改正してほしいと要望することになりました。

2024年7月7日(日)に井笠支部設立総会をやりましょう。その準備会を1月23日(火)にやりましょう。ということになり、目標を定めて準備することの大切さも改めて感じました。

これを受け、1月13日(土)の全国理事会で、私は次のように発言しました。

私たちは三年前から、内山完造ゆかりの地、井原市やその南の笠岡市またその周辺の市町村を合わせて、井笠支部を作ろうと十数回準備会を重ねてきました。井笠という地名は、かつて井笠鉄道という鉄道がありましたし、井笠バスは現在も運行しています。岡山県民にはききなれたものです。しかし、本部の規約によれば、新支部設立には20名の正会員が必要ということになっており、とてもハードルが高いです。現在日本は人口減少社会になっており、日中友好協会も会員が減少していると聞いています。こう

次回の新聞発送作業は
12月28日(木)午前10時半
から民主会館で行います。
前回お手伝いくださった方で
す。

裕 木田
青池 犬飼 真田 竹内